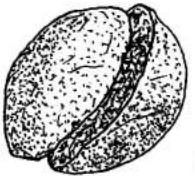


# 阿寺の七滝

阿寺の七滝は、昭和9(1934)年1月22日に国指定名勝及び天然記念物に指定されました。宇連川の支流、阿寺川の上流にあります。滝をつくる岩石は赤茶色をした礫岩です。大小さまざまな大きさの円礫で、化石が見つからないため、堆積した年代がよくわかりません。

近くをとる中央構造線の断層活動の影響で、谷を横断するように断層が何本も横切っています。そのため、断層運動で弱くなったところが浸食されて滝つぼをつくり、七段の階段状の滝になりました。



## 阿寺七滝礫岩層(巣山礫岩層)

駐車場から滝までの歩道沿いの崖では、丸みのある礫がびっしりとつまった礫岩層が観察できます。この礫岩を地元では、子抱石と呼んでいます。礫が断層で分断され、ずれて再度固結するとくいちがひ礫になります。



## 猿滝

七滝に向かう歩道の途中から睦平方面に左折して東海自然歩道を進むと現れます。阿寺礫岩層にかかる滝で、岩肌をなでるように静かに流れ落ちる滝です。この滝も断層が横切っています。

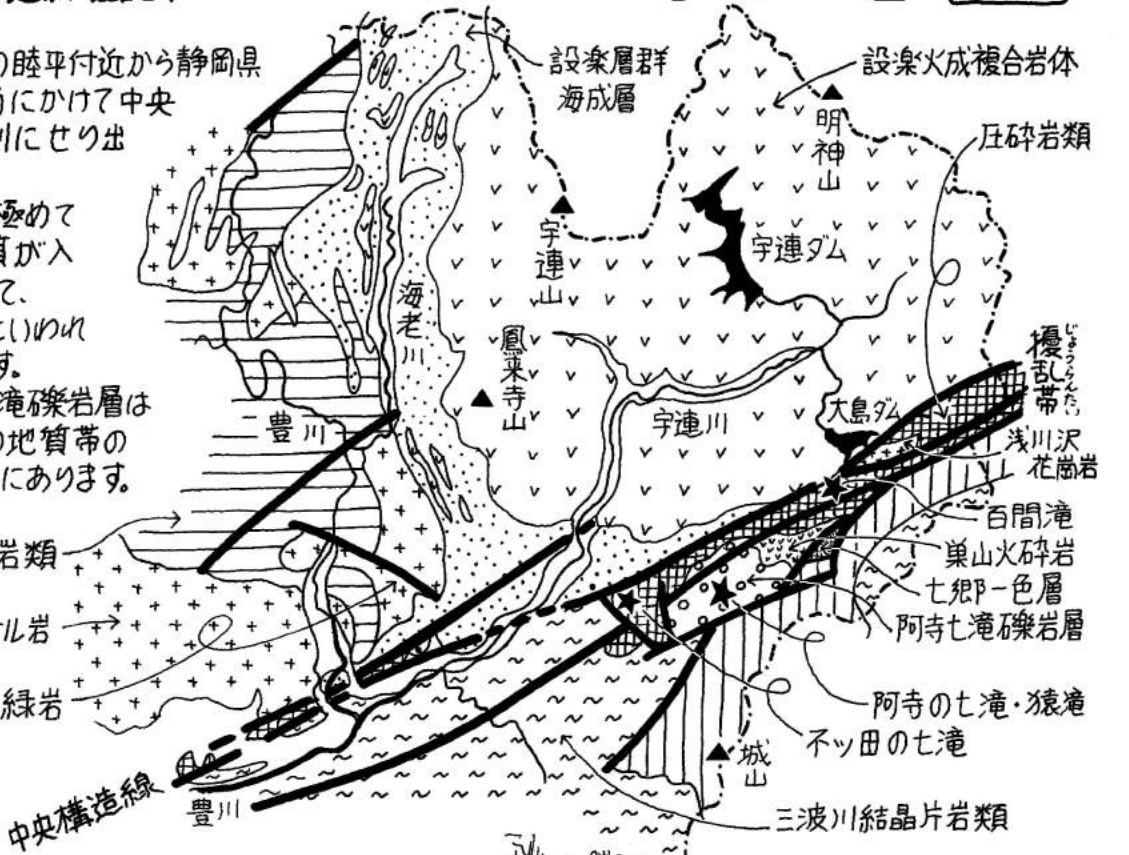


## 中央構造線擾乱帯

新城市の睦平付近から静岡県浜松市蒲川方面にかけて中央構造線が南東側にせり出しています。

この一帯は極めて複雑に地質が入り乱れていて、擾乱帯といわれています。阿寺七滝礫岩層はこの地質帯の中にあります。

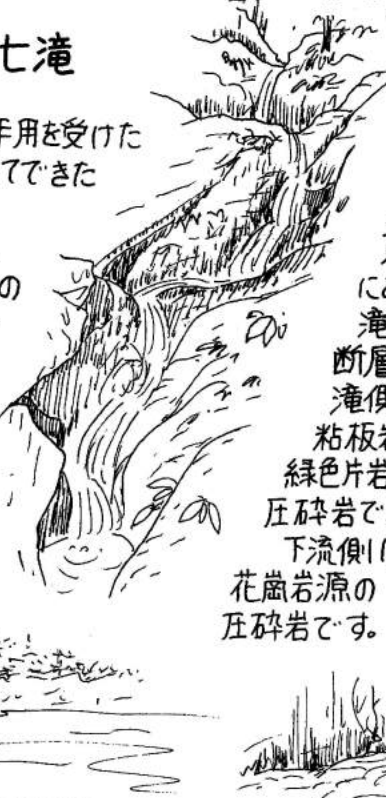
領家変成岩類  
新城トナル岩  
清崎花崗閃緑岩



## 不ッ田の七滝

断層による圧砕作用を受けた花崗岩が浸食されてできた滝です。

すぐ上流に中央構造線の主断層、睦平露頭があります。



## 百間滝

大島川上流の夏明川にあります。滝つぼに断層があり、滝側は粘板岩や緑色片岩源の圧砕岩で、下流側は花崗岩源の圧砕岩です。

